

最上小国川清流未来ニュース

平成 29 年 3 月 24 日 発行
最上小国川清流未来振興機構

第 7 号

最上小国川流域で活動されている方々による第 2 回情報・意見交換会(まちカフェ)を開催しました。

3 月 3 日(金)に舟形町中央公民館で、日ごろ流域で活動されている方々による情報や意見の交換会「まちカフェ(第 2 回目)」を開催しました。

今回は、「地域の宝物である最上小国川を未来に伝えるための活動について～若い世代が川を知り・川に親しむために～」をテーマに、日ごろ、若い世代を対象に、川に親しむ活動などに取り組む方に参加いただき、それぞれの活動内容の紹介や活動にあたっての秘訣・困りごとなどをお話いただきました。



1 先進事例の紹介



菅原正徳さん

はじめに、宮城県仙台市の広瀬川で、幼稚園や小学校などの子どもたちに、川をテーマにした体験活動や環境学習、親子向けの川遊びなどに取り組む、カワラバン代表の菅原正徳さんからお話を伺いました。

菅原さんは、ご自身が体験して楽しいと感じたことを体験プログラムにしていること、ご自身の経験から、小学校は 3～4 年生が比較的参加しやすいのに対し、6 年生の参加は難しいとのお話をいただきました。

また、マスコミが運営するイベント情報サイトに、募集案内を掲載することで、効果的に参加者を募ることが出来るというテクニックをご紹介いただきました。最後に、幼稚園で体験した子どもが、小学校でも体験した時に、とても積極的に参加してくれたことは、とても嬉しかったエピソードをご紹介いただきました。

次に、福島県会津若松市の阿賀川で、川のもつ魅力を、体験を通して子どもたちに伝えるガキ大将(川の達人)を育てる会津めだか塾の開催や学校の総合学習への支援などに取り組む、阿賀川・川の達人の会会長の馬場和廣さんからお話を伺いました。

会津めだか塾を卒業されて、100 名を超える方が、環境・生物などの得意分野に応じて活動していること、近年、会員の高齢化が進み、若い世代の会員を増やすことが課題と、お話しいただきました。また、市町村の教育委員会に対し、川の達人の会が支援出来る体験プログラムを売り込んだ結果、現在では、会津地方の各学校の総合学習の時間で、体験プログラムを行っているとお話しいただきました。



馬場和廣さん

2 グループディスカッション

第 1 回に引き続き、新潟県を中心に、多様な地域づくりのプランニング・コーディネーターに携わっている NPO 法人都岐沙羅パートナーズセンターの斎藤主税さんをコーディネーターに迎え、グループディスカッションを行いました。

参加者約 20 名が 4 グループに分かれ、日ごろの活動内容の紹介や活動にあたっての秘訣・困りごとなどを話し合いました。最上小国川清流未来ニュースでは、参加された方が、話し合われた内容の一部をご紹介します。

最後に、斎藤さんから「より多くの参加を募るには、広報が大切。マスコミの方にとりあげてもらえるよう働きかける(アピールする)ことが必要である。」「いろいろな団体とコラボレーションすることで、単独で開催するより、準備の手間は半分、広報・取り組みの効果は 2 倍になる。」といった助言をいただきました。



斎藤主税さん

グループディスカッションで話し合われた内容(一部)

参加者・スタッフが怪我をしないように気を付けていること。もし怪我をした場合の備え。

- 緊急時、連絡できるよう通信手段を確保する。
- 川には住所がないので、場所を説明できるようにする。
- 参加する方が加入する保険の内容をきちんと確認した上で、適切な保険に加入する。
- 現場の事前確認など準備が大切である。
- 少しでも危ないと感じたら中止する。
- 参加する子どもの健康状態に気を配る。

学校や保護者から協力を得るための秘訣・テクニック。

- まずは、団体の取り組みを知ってもらうことが必要ではないか。
- 学校やスポ少の日程となかなか合わないで、日程をコーディネートする。
- 川を資源とした取り組みを教育に位置づけてもらってはどうか。
- 学校の年間計画に組み込んでもらってはどうか。

参加者募集のテクニック・秘訣、困りごと。

- 直接、会って参加を呼び掛ける。
- 安全対策をしっかりしていることをアピールする。
- 団体の取り組みを定着・定番化することでリピーターを増やす。
- チラシの内容を工夫する（子どもたちが参加したいと感じる内容にする。保護者が安心して子どもたちを送り出せると感じる内容にする）。

新しい取り組みをするために必要なこと。

- 異分野で活動している方とのコラボレーションが必要ではないか。
- 自分達が楽しいと感じることは、子どもたちも喜ぶので、自分達が楽しいと感じることを見つける。
- 事前に、活動する場所の安全確認をする。
- 活動する時に、他の方に迷惑にならないかを考える。

最上小国川流域の振興に向けた取組み(第4回)

「最上小国川清流未来振興計画」に基づく取組みの一つとして「6次産業化の推進」があります。県では、地域資源を活用した新たな6次産業化への取組等を支援するため「元気な6次産業化応援プロジェクト事業」等の活用を支援しています。今回は、その中の2事例について紹介します。

ー3月25日オープンー

「たらふく工房 満沢」(最上町)

旧満沢小学校が農家レストランに生まれ変わりました。地域のお母さんたちが腕をふるった「たらふく御膳 1,200円～」を提供しています。



営業時間

11:30~15:00

要予約

2日前まで

予約 TEL:

080-2818-0060

ー4月下旬オープン予定ー

「(有)舟形マッシュルーム産直カフェ(仮称)」(舟形町)

若あゆ温泉近くにマッシュルームや加工品などを購入できる施設が誕生します。販売だけでなく、軽食なども楽しめる予定です。



- ・地方発送も出来ます
- ・団体予約の受入可能



【お問い合わせ先】

最上小国川清流未来振興機構（山形県最上総合支庁総務企画部総務課連携支援室内）：29-1240

※ 最上小国川清流未来振興機構のホームページでも、流域での地域づくり活動・観光情報などを掲載していますので、是非ご覧ください。（<http://seiryu-mogamiogunigawa.jp/>）